

---

# ボール

狭山茶太朗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボール

### 【NZコード】

N1401E

### 【作者名】

狭山茶太朗

### 【あらすじ】

高校三年の最後の夏。僕が唯一出場した試合。大学生になつた僕は今日も野球を続けている。

## キーン

鋭い金属音が響く。

小さな白い球が、空へと舞いあがり… 雲にとけこむ。そして白球がだんだんと大きくなり、僕の後ろにボトッと落ちた。

緑色の芝生を転がるボール、慌てて走つて追いかける。そして捕まえた頃には、ランナーは二塁へ向かっているのが見えた、僕は急いでショートへ送球する。

走者一掃のスリーベースヒット。

僕のいる小松馬場高校硬式野球部は、ここ十年近く公式戦で勝った事がない。

そんな弱小野球部の僕らは、夏の県大会予選で昨年の優勝校・聖教学園とあたつてしまつた。

試合は下馬評通りに、聖教の攻勢で進んだ。一回表に立ち上がりからワンアウトもとれずに10-0。

その後もひたすら打たれて、今は四回表。スコアは53-0。もう嫌だ。早く、早く終わってくれ。

そんな僕の願いを打ち碎くヒットがライトに飛ぶ。僕ら外野は走つてばかり。これじゃあ公開ノックだ。

結局ツーベースヒット。54-0。どこまで広がるんだろう。

「ボール」

審判のコールが耳に響く。

54 - 0

といつ屈辱的なスコアでも、あいつはマウンドからおりない。

部員一人名しかいないうちの野球部に、控え投手はない。

「まあ…仮に控えがいても、アイツは替わらないだろうがな」

あいつは、球は遅い、球種は少ない、フォームはバラバラ。だけどウチ唯一のサウスロー。

「ボール。フォアボール。」

肩で息をしている。

さつきからストライクが入らない。

それでも、アイツは投げ続ける。正直、誰が投げても打たれるんだから、替わればいいとは思う。

だけど絶対に譲らない。

俺はそんなアイツにサインを出す。ストライクになってくれと願いながら…

あの夏の暑い日。

照りつける太陽。

セミの鳴き声。

ボールがミットにおさまる音と金属音。

様々な歓声と吹奏楽の演奏。

僕らはあの日結局7-1-0で初戦敗退した。

あれから三年がたつた。

あの時のメンバーは、みんなバラバラになつたし、みんな野球を辞めた。

それでも僕は、野球を続けている。大学の野球部では控えだけれど、あの日以来試合に出れないけれど、それでも僕は…

今日も白球をおいつづける。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1401e/>

---

ボール

2011年1月15日14時37分発行